

第五次葉山町総合計画案 (2025年度－2040年度)

2040年。

わたしは、〇〇歳になっています。

町民一人ひとりが、2040年の自分、大切な人たち、

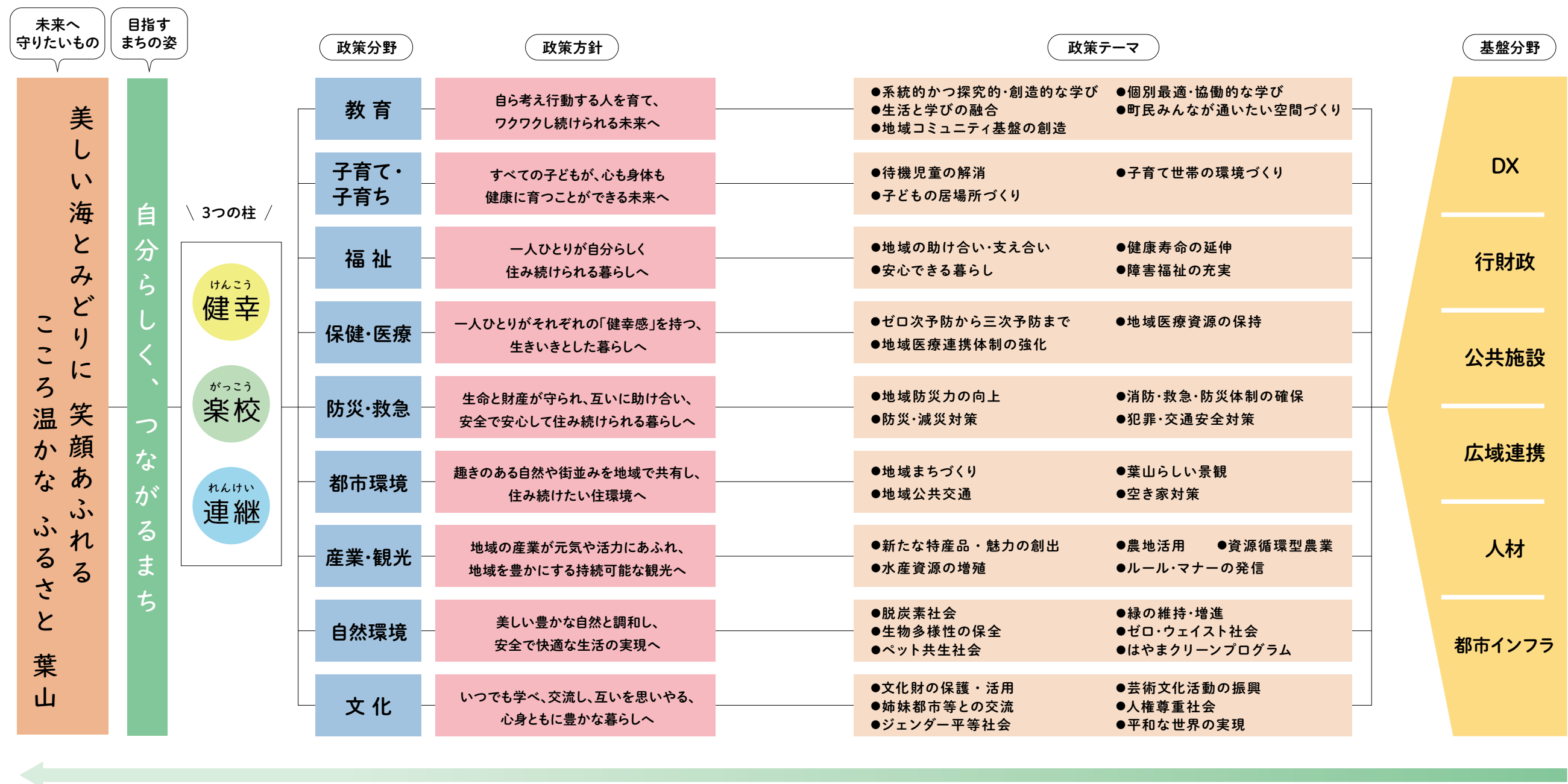
そして、町の未来を想像することから、

葉山町の総合計画は始まります。

※ 総合計画とは、町が策定する行政計画のなかで最上位の計画です。

町の将来像を示したまちづくりの指針や、目指すまちづくりの方向性や施策などを定めているものです。

第五次総合計画の施策の体系



3つの柱

けんこう
健幸

「健幸」とは、美しい豊かな自然環境と共生し、それを活かした病気予防への取組みと、保健・医療・福祉等の取組みによって、町民が健康と幸せを享受し続けることができる暮らしのことです。

がっこう
楽校

「楽校」とは、知識の詰め込みから思考力を重視する学びをつくる、そうした学びに適した空間でありながら地域の人々が通いたくなる空間をつくる、そこでは多くの人たちが教育を通してつながることでコミュニティベースのウェルビーイングが感じられる、そんな新しい学びをつくることです。

れんけい
連継

「連継」とは、未来へ葉山を受け継いでいくために、町に関わる全ての人が連携し、地域の力となる、これからのまちづくりのことです。

基本構想

(2025年度-2040年度)

第1期基本計画

(2025年度－2028年度)

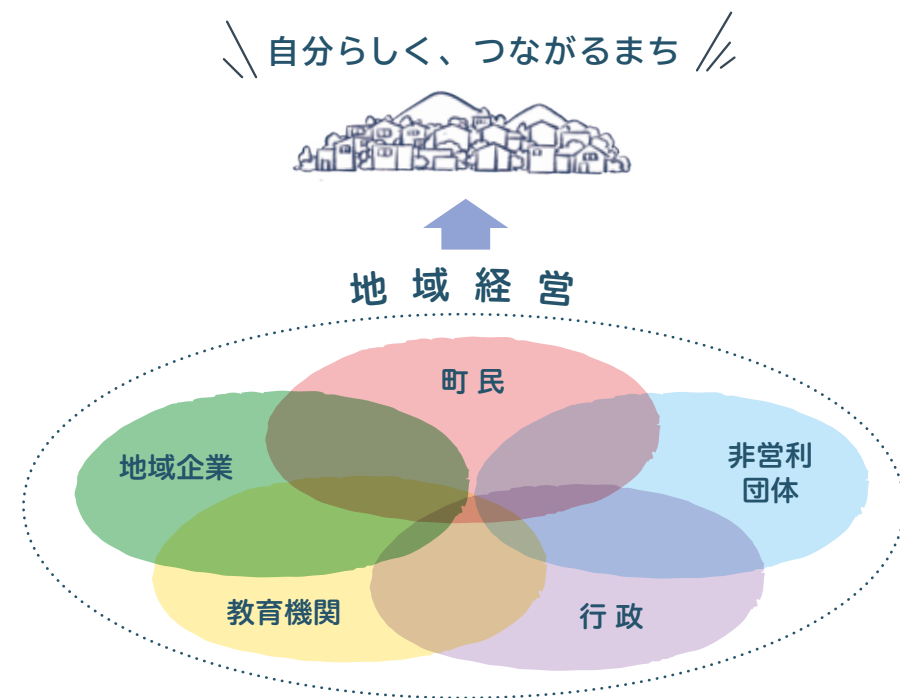
01 基本計画の目的・役割

基本計画の目的は、基本構想に示した 2040 年のまちの姿「自分らしく、つながるまち」を実現していくことです。

この実現のためには、行政の担う役割を着実に進めつつ、未来のあるべきまちの姿を描き、逆算して現在取り組むべき政策・施策・目標を、葉山町に関わる全ての人と手を携えて実行していくことが重要です。

2040 年の未来においては、生産年齢人口の減少に伴い、行政の人員確保や町税収入の維持も厳しい時代になっていると予測されます。しかし、その中であっても、美しく豊かな自然環境の中で、町民が安全に安心して、健康に暮らし続けていくために、行政はデジタルの力を活用し、町民の声・想いを真摯に聴く、そして、想いを持つ人・団体同士がつながることができる、行動できるきっかけを提供し、地域として連携していくことで、葉山のまちづくりを前進（地域経営）させていく必要があります。

そのために、行政はつながりづくり・きっかけづくり・連携などの協力関係を構築し、下支えの役割を担い、葉山町に関わる全ての人とその歩みを共有し、「自分らしく、つながるまち」を実現します。



地域経営とは…地域の住民、町内会・自治会、企業、NPO 等の非営利団体、学校、行政など多様な主体が連携し、その地域が有する人・社会・歴史・文化・街並み・自然環境などの様々な資源を活用しながら、地域の抱える諸課題の解決に向けて取り組み、その地域が持続可能なかたちでまちづくりを進めることを言います。

資料編

